



今週のお薦め

EUにおけるロビー活動

K・ヨース、F・ヴァルデンベルガー 著／平島健司 監訳

日本経済評論社
3150円／174ページ

profile

Kremens Joos

EUTOP Group社長。

Franz Waldenberger

ミュンヘン大学教授（経営学・日本研究）。

EUの意思決定プロセスと働きかけ方を知る一冊

評者
山縣裕一郎
シニアライター

EUは、加盟国を拡大させ、統合度合いを深化し、大きなコミュニティとして、その存在感を増している。環境や食品の安全、競争秩序など、世界に対する新たなスタンダードの提案も多い。EU域内へ工場進出、輸出をする多くの日本企業にとって、EUとの「対話」は重要なテーマだ。

本書はEUの意思決定の仕組みとプロセスを解析し、どのようににEUに働きかけるか、具体的に述べたユニークな一冊だ。本書でいうロビー活動は、利益代表活動の枠内でEU諸機関に効率的に接近する方法である。

ロビイストはただ「陳情」するのではなく、自分の持ち情報をブリュッセルの意思決定者に提供し、決定のプロセスにおいてそれを考慮してもらうことである。こうした行為はEUでは正当であり、望まれる行為であるという。企業はロビー活動で競争上の不利を回避し、または優位性を獲得する。

EUの加盟国ではなく、異文化の外様である日本が、どのようににEUに食い込むかが、本書の問題意識でもある。

欧州連合では欧州委員会のみが法案提出権を持ち、欧州理事会で決議・意思決定される。

したがって、利益代表にとって具体的な法案の採決する理事会への働きかけは重要だ。

欧州委員会は企業にオープンであるが、委員は多忙であり、裁量を与えられ法文の起草に影響ある低・中ランクの職員にアプローチすることになる。

欧州議会は加盟国が25カ国に増える中で重みを増してきている。議員は法案を提出する委員会に働きかける力があり、議員やそのスタッフとの交流は欠かせない。EUにおける日本のロビー活動はまだ歴史が浅いが、対EUロビーを専門とする著者による本書からは、具体的に貴重なアドバイスが得られる。